

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

パート3：イエスのように反対や迫害に対処する方法

デイリー・ジーザス・ニュース #105

MT 10.16-23 (並行テキスト：なし)

16よく聞きなさい。わたしはあなたがたを、狼に取り囲まれた羊のように遣わす。だから、蛇のように賢く、鳩のように純真であれ。17わたしはあなたがたに命じる。常に用心深くあれ。あなたがたは地方議会に引き渡され、会堂で鞭打たれるであろう。」

18あなたがたは、わたしのゆえに総督や王たちの前に引き出され、彼らと異邦人に対する証人となるでしょう。19しかし、彼らがあなたがたを捕らえるとき、何を言うべきか、どのように言うべきかと、一瞬たりとも思い悩む必要はありません。その時、何を言うべきかが与えられます。20話すのはあなたがたではなく、あなたがたを通して話すあなたがたの父の霊なのです。

21兄弟は兄弟を裏切り、父は子を裏切って死に至らしめ、子らは親に背いて親を殺しに至らしめるであろう。22あなた方はわたしのゆえにすべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われるであろう。

23あなたがたが一つの所で迫害されたら、別の所へ逃げなさい。よく言っておくが、人の子が来る前に、あなたがたはイスラエルの町々を巡り終わらないでしょう。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルカ = L、ヨハネ = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています**。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	おそらくガリラヤのカペナウム
タイムライン	回ツアー直前)
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	H. イエスはガリラヤへの第三巡回の前に十二使徒を整える
タイトル	パート3：イエスのように反対や迫害に対処する方法

コメント：

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

イエスは宣教活動中に、今日の朗読と同じ内容を少なくとも二度繰り返しました。一度は「第五段階：後期ユダヤ・ペレアン宣教」（ルカ12:1-11）で、そしてもう一度は生涯の最期の「第六段階：受難週」の「終末の説教」（マルコ13:9-13）の中です。この箇所は、使徒たちとすべての信者に対し、迫害の時期にあっても聖霊の力に頼り、大胆に証しと説教を続けるよう命じています。

間近に迫った第三回ガリラヤ巡回旅行の直前の状況において、この警告は必要でした。なぜなら、ユダヤ人指導者によるイエスへの憎しみと反対が強まっており、使徒たちは宣教中に敵意に遭遇することになるからです。彼らは迫害に備え、さらには迫害の中で力強く生き抜く必要がありました。あらゆることにおいてそうであったように、イエスはこの点においても彼らの模範でした。

イエスとそのメッセージに対する世の敵意は、イエスの第三回ガリラヤ巡回で終わることはありませんでした。それは使徒たちの宣教活動を通して、この時代の終わりに至るまで続き、様々な時期に激しさを増し、イエスが最終的に地上に来られる直前の、諸国への最後の福音宣教活動において頂点に達しました。そのため、マタイ10章でイエスは使徒たちに対し、最初の宣教任務をはるかに超える言葉を用いました。そして、その後の1年間の弟子訓練を通して、その言葉を強調するために、この言葉を何度も繰り返しました。

迫害は福音を広める上で、他に類を見ない特別な機会となります。イエスが言われたように、迫害はクリスチャンにとって「総督や王」に証言する機会を大きく開くのです。彼らは証言の真実性と、証言する者の人格を見極めようと耳を傾けています。自らの主張の真実性のために命を捨てる覚悟のある人々は、尋問する者たちの注意と耳を傾けを求めます。裁判と尋問、迫害下における死に至るまでの忠実さ—これらは、国家や文化に上から下まで影響を与える近道です。イエスはこれをよく知っていました。

弟子としての歩みと真の奉仕は、弱気な人には向いていません。信者であろうと未信者であろうと、人からの称賛に誇りを持つ人には向いていません。安楽や安楽、あるいは甘やかされることを尊ぶ人には向いていません。イエスは、深刻な欠点や欠陥を抱えた罪深い人々を召し、従い仕えるようにと命じました。彼らは、世界的なバイオリニストの真似をしようとする猿のように、性格も生き方においてもイエスとはかけ離れた状態から、イエスと共に歩み始めました。しかし、彼らはイエスが宇宙の王であると心から信じていたため、イエスに従うことを決意していました。

そのような人々は、主に仕える特権のために喜んで苦しみを受け、それを人生最高の栄誉と考えています。イエスがこの訓練で語られたのは、まさにそのような人々でした。

ですから、イエスは弟子たちに、主のために苦難や苦しみに耐えるという態度について、常に警戒するように命じられました。私たちは、この墮落した世において、狼たちの群れの中にいる羊のようなものです。反対や迫害さえも当たり前のことです。それが起こっても、驚くようなことがあってはなりません。

イエスは命令と共に、尊い約束を与えてくださいました。聖霊は私たちを満たし、内なる勇気と、主のために苦しむことの栄光を見る力を与え、私たちを通して、その状況において語られるべき完璧な言葉を語ってくださいます。迫害こそが、福音を広め、教会を成長させるための神の計画です。ですから、聖霊は神の僕たちの内に臨機応変に立ち上がり、この世の何者にも匹敵することも、真似ることもできない力で、私たちがその瞬間を捉えることができるようにしてくださいます。これは迫害の時におけるイエスの確かな約束です。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

聖霊の力と内なる働きは、私たちの置かれた状況において、私たちに抵抗する外的な力の大きさに応じて、私たちの内に働きます。私たちは常に、状況が要求するよりもはるかに多くの聖霊の力を受けることができます。使徒たちは幾度となく迫害の中で聖霊の力を経験しました。イエスが地上におけるあらゆる迫害を乗り越えられたのも、まさにこの力でした。彼らは迫害を受けるたびに聖霊を信頼するだけの「知恵」を持つ必要がありました。

迫害に関して、イエスはもう一つの命令を与えました。それは、逃げよ、という命令です。一見すると驚くべきものですが、これもまた素晴らしい戦略です。使徒たち（そしてすべての弟子たち）が聖霊の力によって勇敢であるなら、私たちもしっかりと立ち、逃げることを拒否するのではないのでしょうか。答えはイエスであり、答えはノーです。一度逮捕されても、私たちは恐れに屈することなく、大胆に伝道するでしょう。一方、逮捕を免れ、イエスを宣べ伝え続けるゲリラ福音運動は、二つの重要なことを行います。(1) 福音の種をより多くの場所に蒔くことで、時間の経過とともにより大きな収穫が保証されます。(2) 消されにくいという厄介な能力により、社会の権力者や人々からさらに多くの注目を集めることになり、「総督や王たち」への伝道も増えるでしょう。

だからこそ、私たちは伝道への反対に対処する際に「蛇のように賢く、鳩のように無害で」なければなりません。次の町へ、そしてその先へ、いつ、どのように効果的に「逃げる」べきかを賢明に見極め、そこで、そしてさらに遠くまで伝道しなければなりません。伝道の自由を長く保てば保つほど良いのです。弟子たちが迫害から逃れるのは恐れのためではなく、別の場所に種を蒔くために移動する知恵のためです。一方、逮捕され尋問を受けた時は、誰と話しているかに関わらず、その場で伝道する機会を逃しません。

の第三回ガリラヤ巡礼における弟子たちの比較的短い宣教期間は、聖霊の力と導きのもと、説教をし、反対や迫害に賢明に対処するための実地訓練でした。これらの原則は、反対と迫害の時代が特徴であった教会の成長と発展の最初の3世紀において、教会の姿勢を導きました。これらの戒めと聖霊の約束は、イエスが最後の再臨まですべての信者を導くために意図されたものでした。したがって、これらは私たち一人一人が学び、従うべき極めて重要なものです。

応用：

イエスの名において大胆に宣教する時、私たちは皆、様々な形の反対や迫害に遭遇するでしょう。イエスは、どんな苦しみや喪失も喜んで耐え忍ぶほどの愛と情熱をもって、そしてイエスのためにどんな代価を払っても光栄であると考えた姿勢で、ご自分に従うようにと私たちに召しておられます。新約聖書はそのような信仰に満ちており、使徒たちは皆、ペンテコステで聖霊の力を受けた後、何度もそれを示しました。

十二使徒のうち11人は最終的に殉教しました。イエスの名において奉仕するには、大胆で揺るぎない決意と、イエスのために何でも犠牲にする覚悟を持った人々が求められます。

あなたは、迫害や、その他のいかなる損失も喜んで受け入れるほど、聖霊の力の中で日々歩んでいますか。

イエスは、十二使徒と同じように、私たち一人一人にそのような態度を育ててほしいと願っておられます。イエスはそれにふさわしい方です。